

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	大学教育の現状とFD活動の意義（必修）	
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	
形式	講義と演習（対面）	
時間	90分	
実施形態		開催日時
<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス		5月13日（月） 18:15～19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室
講師	安岡 高志（高等教育研究）	
到達目標	1. FDの概念、構造、制度基盤についての基礎知識を得る。（5-1-1対応） 2. 教員自身の自己改善・キャリア開発とFDの関連を理解できる。（5-1-2対応） 大学のDP（自分流の達成）や教育理念（実学・国際性・開放性）に基づいた教育活動に貢献できる。（5-2-3対応）	
事前学習課題	1. 自身がこれまでに担当した授業のシラバスを印刷して持参してください。	
講座の流れ 分		
セッション1	【全体活動】 ①受講生と担当教員の自己紹介 ②新任教員研修プログラム、ブラッシュアッププログラムの概要 ・本学の新任教員研修プログラム及びブラッシュアッププログラムの目的、および修了証明書・出席証明書の発行までの流れについて説明します。	30
セッション2	【全体活動】 ③大学教育の現状とFDの目的 ・大学をめぐる現状と課題、授業改善を行う意義について解説し、CTLが提供するFDサービスについて情報提供を行います。	30
セッション3	【グループ活動】 ①グループディスカッション ・授業で困っていることや、今後やってみたい授業での工夫や改善について、グループごとに協議を行います。 ・1～2例を発表してもらい、講師よりコメントを行います。	30
事後学習課題	・振り返りシートの記入と事後アンケートの入力 ※研修会場で記入するか、各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。	
参考文献	1. 佐藤浩章・中井俊樹・小島佐恵子・城間祥子・杉谷祐美子（編）（2016）大学のFD Q&A 玉川大学出版部。	

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	シラバスの作成と授業の到達目標の書き方（必修）	
【領域】	2. 授業のデザイン(目標設定、実施計画、成績評価)	
形式	講義と演習(対面)	
時間	90分	
実施形態		開催日時
<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス		6月10日(月) 18:15～19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室
講師	安部 健太(教育方法研究支援)	
到達目標	1. シラバスの必要性を説明できる 2. 授業の到達目標が適切に書ける	
事前学習課題	- これまでに自身で作成したシラバスがある方は、1件持参してください。 - これまでに自身で作成したシラバスがない方は、身近なシラバス(学習経験のある科目、所属部署に関わる科目など)を1件持参してください。	
講座の流れ		
		分
セッション1	シラバスの必要性について概説(共同化) シラバスに書かなければならない事柄は何かというシラバスの基本枠組みについて概説します。また、授業の到達目標の書き方についても解説します。	50
セッション2	個人ワーク(表出化) シラバスの基本枠組みと自身で作成したシラバスを比較し、相違点を抽出した後、必要に応じて改訂を行います。	10
セッション3	グループ内でシラバスの改訂内容の紹介と意見交換(連結化) 改訂内容を中心にグループ内でシラバスを紹介し、最も大きな変化のあったシラバスを選びます。選ばれたシラバスについては発表していただき、全体共有します。	20
事後学習課題	- 振り返りシートの作成と事後アンケートの記入(内面化) - 講座での学びを活かし、今年度のシラバスの改善点を研修総括レポートに記述する(内面化)	10
参考文献	- e-Govポータル 大学設置基準 https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=331M50000080028 (参照日 2024年4月1日) - デイビス, B.G. 香取草之助(監訳) (2002). 授業の工具箱. 東海大学出版会.	

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	大学授業の成績評価について考える (必修)	
【領域】	4. 成績の評価、フィードバック	
形式	講義と演習 (対面)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	7月1日(月) 18:15～19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室
講師	宮原 俊之(教育方法研究支援)	
到達目標	1.成績評価の意義と目的、方法と特徴について理解できる(4-1-1、4-1-3対応) 2.学習目標に合わせて、成績評価の基準と方法、成績評価のフィードバック等を適切にデザインできる。(4-2-1対応)	
事前学習課題	1. 自身の授業シラバスを1～2件持参する。科目は、できるだけ到達目標に汎用的技能や情意的領域(関心・意欲)などが含まれているものを選択してください。(※授業を担当していない方は、自大学内で関心のある科目のシラバスでも結構です。) 2. (可能であれば) 映像資料「カテゴリ:高等教育リテラシー形成、テーマ:『授業デザインとシラバス作成』、講師:串本 剛(東北大学) http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/index.php?page=1&search=&c=1&k=&p= 」を視聴し、成績評価に関する基礎的知識を得る。(※講座内でのビデオに関する解説などは行いません。)	
講座の流れ		分
セッション1	①グループでの意見交換(共同化) 成績評価で困っていることや疑問に思うことなどを共有します。 ②成績評価の基本(共同化) 「厳格な成績評価」の意味、成績評価の方法や到達目標と成績評価の一貫性等について、講師より基礎的な知識提供を行います	40
セッション2	③個人ワーク(成績評価手段と評価割合の見直し、共同化・表出化) ワークシートを使って持参した評価手段と評価割合(手順1)の見直しを行います。	20
セッション3	④グループディスカッション(表出化・連結化) ・作成したワークシートを紹介しあい、今後の改善方法などについて意見交換を行います。 ⑤質疑応答	25
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの記入(内面化) 2. 講座での学びを活かし、今年度の授業で行なった成績評価の方法や改善点を研修総括レポートに記述する(内面化)	5
参考文献	1. ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ著、佐藤浩章監訳、井上敏憲、俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版 2. 松下佳代「パフォーマンス評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもとづいて—」、京都大学高等教育研究第18号、2012、pp.75-114 3. 溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』、東信堂、2014 4. 梶田叡一『教育評価』、有斐閣双書、2005	

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	データによる授業改善のすすめ:大学における教育の質保証とIR (選択)	
【領域】	2. 授業のデザイン(目標設定、実施計画、成績評価)	
形式	講義と演習 (Zoom)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input type="checkbox"/> 集合 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	10月7日(月) 18:15~19:45(接続は18:10)
講師	未定	
到達目標	1. 授業で取得できる成果検証のためのデータとその収集・分析の方法について理解する(2-2-5対応) 2. 成果検証に適した指標と基準を設定することができるようになる(2-2-5対応) 3. 検証結果をもとに授業の学習目標や授業計画をリデザインできるようになる(2-2-5対応)	
事前学習課題	*受講者へ後日お知らせします。	
講座の流れ		分
セッション1	【全体活動】 ●大学における教育の質保証と教学IRの役割(共同化) ①大学における教育の質保証とInstitutional Research(15分) ②授業における成果検証のためのIR:エビデンスを用いた授業改善(10分) ③授業改善をどう評価するか:指標と基準(5分)	30
セッション2	●データを用いた授業改善のためのワークショップ①(表出化) 【個人活動】 ①データを用いた授業改善のためのワークショップ 改善したい授業の問題点を整理した上で、そのための授業研究の目的や分析枠組みの設定、データの選択、判断のための指標と基準、条件について、ワークシートを作成する	15
セッション3	【グループ活動】 ●データを用いた授業改善のためのワークショップ②(連結化) ②①で作成したワークシートについてグループ内で説明し、意見交換を行います。 ③ワークショップの総括(5分)	40
事後学習課題	【個人活動】 ●振り返りシートの作成と事後アンケートの入力(内面化) ※事後アンケートは、研修当日を含めた3日以内にご回答ください。	5
参考文献	1. 『大学のIR:意思決定支援のための情報収集と分析』慶應義塾大学出版部、小林雅之ほか編、(2016) 2. 平成24-25年度文部科学省先導的・革新的大学改革推進委託事業「大学におけるIRの現状と在り方に関する調査研究」全国大学IR調査 3. 『大学IRスタンダード指標集』関東地区IR研究会監修、松田岳士ほか編、玉川大学出版部、(2017) 4. 『学生による授業評価の現在』東北大学高等教育開発推進センター編、東北大学出版会、(2010)	

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	初年次ライティング指導の理論と方法（選択）	
【領域】	3. 教育の実践	
形式	講義・ディスカッション（Zoom）、演習（事前学習課題）	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input type="checkbox"/> 集合 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	10月8日（火） 16:30～18:00（接続は16:25）
講師	山下 由美子（文章表現教育）	
到達目標	1. 初年次ライティングを取り巻く背景や現状についての基礎知識がある。（3-1-1対応） 2. 学生の学習を促す授業の準備、授業運営を行う。（3-2-2対応）	
事前学習課題	1. 事前学習資料の2つのレポートは、初年次学生が書いたものです。それぞれのレポートを読み比べてみてください。 2. それぞれのレポートに高い評価と低い評価をつけ、その理由を考えてきてください。 3. 学生のレポートや文章に関して、特に問題を感じることを考えておいてください。 4. 学生の文章力向上のための工夫や取り組みがあれば、グループディスカッションで簡単に紹介できるように準備しておいてください。	
講座の流れ		分
セッション1	*16:25にZoomに接続してください。 【全体活動】 ①初年次ライティング科目を取り巻く現状（共同化） ・初年次ライティング科目設置の動向を概観し、本学の取り組みを含め、講義形式で解説します。	20
セッション2	【グループ活動】 ※始めに、グループ内で簡単に自己紹介を行います。（1分） ②2つのレポート例の比較およびレポート評価についての意見交換（共同化・表出化）（12分） ・事前課題の2つのレポートの違いについて、グループで情報共有をします。 ・よいレポートとダメなレポートをどう判断しているか、すべきかについて意見交換を行います。 ③「学生のレポートや文章から感じる問題点」「学生の文章力向上のための工夫や取り組み」についての紹介（共同化・表出化）（12分） ・これまで見てきた学生のレポートや文章から感じる問題点、ご自身の授業などでの工夫や取り組みについてグループ共有をします。 →②③で共有された話や意見は、次のセッションで全体共有をします。	25
セッション3	【全体活動】 ④全体共有（表出化・共同化） ・セッション2で意見交換した内容をグループごとに発表し、全体共有をします。	10
セッション4	⑤補足説明と「eラーニングで学ぶ文章作法入門」紹介（共同化・連結化） ・まとめとして補足説明をします。 ・初年次向け科目「eラーニングで学ぶ文章作法入門」の授業概要を通して、授業で身に付けられる文章力を紹介します。	25
事後学習課題	【個人活動】 接続切断後各自でご記入ください。 ・振り返りシートの作成と事後アンケートの記入（表出化・内面化） ・研修を終えて、ご自身が学生の文章で最も重視したい点やそのための指示の仕方を分析することで、学生に書かせたいレポートイメージを明確化します。	10
参考文献	1. 関西地区FD連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター（編集）『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』（ミネルヴァ書房、2013年） 2. 仲道雅輝・山下由美子・湯川治敏・小松川浩『大学初年次における日本語教育の実践：大学における学習支援への挑戦3』（ナカニシヤ出版、2018年） 3. 成瀬尚志『学生を思考にいざなうレポート課題』（ひつじ書房、2016年） 4. 文部科学省「平成28年度の大学における教育内容等の改革状況について（概要）」 (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2019/05/28/1417336_001.pdf)	

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	インストラクショナルデザインに基づく授業設計の確認と教材チェック(基礎編)(選択)	
【領域】	2. 授業のデザイン(目標設定、実施計画、成績評価)	
形式	講義と演習(対面/Zoom)	
時間	120分	
	実施形態	開催日時
	<input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> ハイフレックス(申し込み時に集合かオンラインか、ご希望の参加方法をお選びください)	10月28日(月) 16:30~18:30(接続は16:25) 8号館TNec812教室
講師	宮原 俊之(教育方法研究支援)	
到達目標	1. 「インストラクショナルデザイン」とは何かを説明できる。(2-1に対応) 2. インストラクショナルデザインの視点(講座で取り扱った内容:本学DPもその一つ)から、自らの授業設計の特徴についてチェックできる。(2-2に対応)	
事前学習課題	1. 現在授業で使用している教材を持参して下さい(1回~2回分程度)。オンライン授業も含まれます。	
講座の流れ		
		分
セッション1 (対面/Zoom)	* オンライン参加の方は16:25にZoomに接続してください。 ①授業設計の全体像を知る(共有化フェーズ) ・ インストラクショナルデザインを通して、授業設計の全体像について概説します。	20
セッション2 (対面/Zoom)	②システムの授業設計・開発の手順を知る(共有化フェーズ) ・ システム的な授業設計・開発の全体的な手順を紹介した上で、特に、授業の組み立て[ガニエの9教授事象]、動機づけ[ARCSモデル]、授業・教材の評価[形成的評価]について、取り上げます。	35
セッション3 (対面/Zoom)	③授業設計理論を理解するためのワーク(表出化・連結化フェーズ) ・ セッション2で取り上げた理論に関するワークを行います(個人作業)。25分 ・ グループ内で、ワークからの気づきも含めて自分の授業設計における特徴について説明し、意見交換を行います。20分	45
セッション4 (対面/Zoom)	④全体での共有(表出化・連結化フェーズ) ・ グループ内での意見交換における気づきを全体で共有します。15分 ・ 質疑応答 5分	20
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。(内面化) ※集合参加の方は研修会場で記入できます。オンラインで参加されている方は、接続切断後に各自でご記入ください。事後アンケートは、研修当日を含めた3日以内にご回答ください。 2. 講座での学びを活かし教材の見直しを行った場合は、その内容(チェックした点、改訂した点など)をまとめてください(研修総括レポートに記述するのがよいでしょう)。	
参考文献	1. R. Mガニエ・W. Wウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー著、鈴木克明・岩崎信監訳『インストラクショナルデザインの原理』、北大路書房(2007) 2. C.M.ライゲルース、A.A.カー=シエルマン著・編集、鈴木克明、林雄介監修・編集『インストラクショナルデザインの理論とモデル: 共通知識基盤の構築に向けて』、北大路書房(2016) 3. J. M. ケラー著、鈴木克明監訳『学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房(2010)	

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	インストラクショナルデザインに基づく授業設計の確認と教材チェック(実践編)(選択)	
【領域】	3. 教育の実践	
形式	講義と演習(対面/Zoom)	
時間	120分	
実施形態	開催日時	/
<input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> ハイフレックス(申し込み時に集合かオンラインか、ご希望の参加方法をお選びください)	11月11日(月) 16:30~18:30(接続は16:25) 8号館TNec812教室	
講師	宮原 俊之(教育方法研究支援)	
到達目標	1. インストラクショナルデザインの視点(講座で取り扱った内容:本学DPもその一つ)から教材をチェックした結果をまとめることができる。(3-1および3-2に対応) 2. 「1.」でまとめた結果から、実際の授業の改善を行うことができる。(3-1および3-2に対応)	
事前学習課題	1. 現在授業で使用している教材(内容を見直したいと思っているものがあればその教材)を持参して下さい(1回~2回分程度)。オンライン授業も含まれます。 2. 内容を見直したい教材の場合は、どうして見直したいのかをまとめておきましょう。	
講座の流れ		分
セッション1 (対面/Zoom)	* オンライン参加の方は16:25にZoomに接続してください。 ①授業設計の全体像と体系的な授業設計・開発の手順を確認する(共有化フェーズ) ・ 基礎編で取り上げた内容(インストラクショナルデザインを通しての授業設計の全体像、授業の組み立て[ガニエの9教授事象]、動機づけ[ARCSモデル]、授業・教材の評価[形成的評価]など)について確認します。 ②授業改善の手順を確認する(共有化フェーズ) ・ 実際のチェックを行う前に、授業改善の手順について概説します。	20
セッション2 (対面/Zoom)	③教材チェックのワーク(表出化・連結化フェーズ) ・ 各自、持参した教材の1回分を選び、基礎編やセッション1での学びを利用しチェックします(個人作業)。20分 ・ グループ内で各自のチェック内容について説明し、意見交換を行います。15分 ※このセットを違うチェックシートを使って2回行います(35分*2回)。	70
セッション3 (対面/Zoom)	④全体での共有(表出化・連結化フェーズ) ・ グループ内での意見交換における気づきを全体で共有します。20分 ・ 質疑応答 10分	30
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。(内面化) ※集合参加の方は研修会場で記入できます。オンラインで参加されている方は、接続切断後に各自でご記入ください。事後アンケートは、研修当日を含めた3日以内にご回答ください。 2. 講座での学びを活かし教材の見直しを行った場合は、その内容(チェックした点、改訂した点など)をまとめてください(研修総括レポートに記述するのがよいでしょう)。	
参考文献	1. R. Mガニエ・W. Wウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー著、鈴木克明・岩崎信監訳『インストラクショナルデザインの原理』、北大路書房(2007) 2. C.M.ライゲルース、A.A.カー=シェルマン著・編集、鈴木克明、林雄介監修・編集『インストラクショナルデザインの理論とモデル: 共通知識基盤の構築に向けて』、北大路書房(2016) 3. J. M. ケラー著、鈴木克明監訳『学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房(2010)	

2024年度新任教員研修プログラム・講座概要

講座名	ルーブリックについて知る(未経験者向け)(選択)	
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	
形式	講義と演習(対面)	
時間	90分	
実施形態	開催日時	/
<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	11月18日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア3階CTL研修室	
講師	安岡 高志(高等教育研究)	
到達目標	1. 多様な評価の方法とその特徴について理解できる(4-1-3対応) 2. 学習目標に合わせて、成績評価の基準と方法、成績評価のフィードバック等を適切にデザインできる。(4-2-1対応)	
事前学習課題	・ルーブリックを活用したいと考えている授業のシラバス 1~2 件を持参してください。 ・これまでに自身で作成したルーブリックがあれば持参してください。 ＊その他の事前課題については、実施前に連絡します。	
講座の流れ		分
セッション1	【全体活動】 ①ルーブリック使用経験の情報共有(共同化) ・自身がこれまでにに行った、ルーブリックを活用した取り組みについて情報共有を行います。	10
セッション2	【全体活動】 ②ルーブリックの基本と活用例 ・ルーブリックについての基本情報と活用例について概説します。	30
セッション3	【個人活動】 ③ルーブリック作成のミニワーク(表出化) ・自身の授業について用いるルーブリックを作成します。	25
セッション4	【全体活動】 ④グループディスカッション(連結化) ・作成したルーブリックについて意見交換を行います。	20
事後学習課題	・振り返りシートの作成と事後アンケートの入力(内面化) ※接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。 ・研修の内容をもとに、今後の授業におけるルーブリックの活用について検討してみてください。	5
参考文献	1. ダネル・スティーブンス & アントニア・レビ著、佐藤浩章監訳、井上敏憲・俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部(2014) 2. 沖裕貴「大学におけるルーブリック評価導入の実際— 公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指して—」、立命館高等教育研究 14 号、2014、pp.71-90 3. 梶田叡一『教育評価』、有斐閣双書、2005 4. 田中耕治『教育評価の未来を拓く—目標に準拠した評価の現状・課題・展望—』ミネルヴァ書房、2003 5. スー・F・ヤング & ロバート・J・ウィルソン著、土持ゲーリー法一監訳、小野恵子訳『「主体的学び」につなげる評価と学習方法—カナダで実践される ICE モデル』、東信堂(2013)	